



東淀川 社協だより

令和4年
4月号

No.102

編集・発行 / 大阪市東淀川区社会福祉協議会 広報部 TEL.06-6370-1630 FAX.06-6370-7330
〒533-0022 大阪市東淀川区菅原4-4-37 (区社協ホームページ) <https://hohoemi-kushakyo.or.jp/>

ほほえみ 社協

検索



東淀川区



「地域社会福祉協議会」をシリーズでご紹介!

区内17の地域では「地域社会福祉協議会」が組織され、地域の福祉課題の解決に向けた話し合いが行われ、様々な独自の事業が取り組まれています。今回は「新庄地域社会福祉協議会」をご紹介します。



No.2

新庄

地域社会福祉協議会

Shinjyo

「コロナ禍でもつながることの大切さを」

～新庄地域の新たな取り組みから～

新庄地域では、連合女性部の発案で高齢者の方々等を対象に、脳トレに関するクイズを新庄社福会館まで取りに来て、次回来る時に答えを考えてきていただく取り組みを始めました。これは、令和元年12月に策定した「新庄地域保健福祉計画」に基づき、同計画のスローガンである「みんなが住みやすく健康で気軽に暮らせる安全・安心な新庄」をモットーに、コロナ禍で外出する機会が減った方々の安否確認や介護予防を目的としています。少しの機会でも会館まで歩いてきていただくことで、体力の維持につながることを期待されます。「一人ひとりを大切に、今自分たちにできることをしたい」といった、新庄地域関係者の温かい気持ちのこもった、「コロナ禍でもつながることの大切さ」が伝わる新たな取り組みです。



新庄社福会館と脳トレチラシ



東淀川区社会福祉協議会は、4つのキーワードでやさしさとぬくもりのある福祉のまちづくりを進めます!

当会は、「居場所」「見守り」「担い手」「防災」をキーワードに、地域共生社会の実現に向けて、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安全・安心に暮らすことのできるやさしさとぬくもりのある福祉のまちづくりを進めてまいります。

居場所

様々な生活課題を抱えた人が集い、気軽に相談できる場、ホッとできる居場所づくりに取り組みます。新型コロナウイルス感染症の影響により、自由に人が集い、ふれあい、顔を合わせて交流する活動が制限されるという状況が続く中、オンラインの活用など「集まれなくてもつながる方法」を取り入れながら、つながりづくりを絶やさない取り組みを進めてまいります。

見守り

生活課題を抱える人の地域での孤立を防ぐとともに、いつまでも安心して暮らせるよう、普段から見守り声掛活動を推進し、「支え、支えられる関係づくり」を進めてまいります。

担い手

地域活動への関心を高め、住民相互の助け合い活動への機運を醸成し、活動実践者を増やすため、地域と協働で新たな人材確保に努めてまいります。また、学校等教育機関と協働で福祉・防災教育を推進し、災害が起きた際に自身で避難することが困難な人をサポートできるよう、普段からの心構えや対応のポイントについての助言等、次世代を担う人材育成に積極的に取り組んでまいります。

防災

区役所や関係機関等と連携し、福祉的視点から要援護者への支援や支え合いについて地域に働きかけを行い、地域防災力を高め、災害が起きて支え合える地域づくりを推進します。また、大規模災害が発生した際には、大阪市との協定に基づき各区で「災害ボランティアセンター」を設置運営することになっていることから、運営支援者研修を開催し、人材確保に努め、同センターの運営機能強化を図っています。

福祉・防災教育

当会は、社会福祉活動の一つとして、小・中・高校での福祉・防災教育を推進しています。これは小・中・高校の児童・生徒が、地域にどのような人が暮しているのかを知り、自分たちは何ができるのかを一緒に考えていく機会を広げていきたいと考えるからです。この時期に、「福祉・防災教育」で基本的な知識を習得することで、自分たちが住んでいるまちに、安心してずっと住み続けたいと思う気持ちを醸成することにつながり、まちの活動の新しい担い手となっていただけたらと考えています。

お問合せ TEL.6370-1630 地域支援担当(福祉・防災教育担当)

内容

- ① 車椅子体験学習
 - ② アイマスク・白杖体験学習
 - ③ 認知症サポーター養成講座
 - ④ 高齢者疑似体験学習
- などです。

